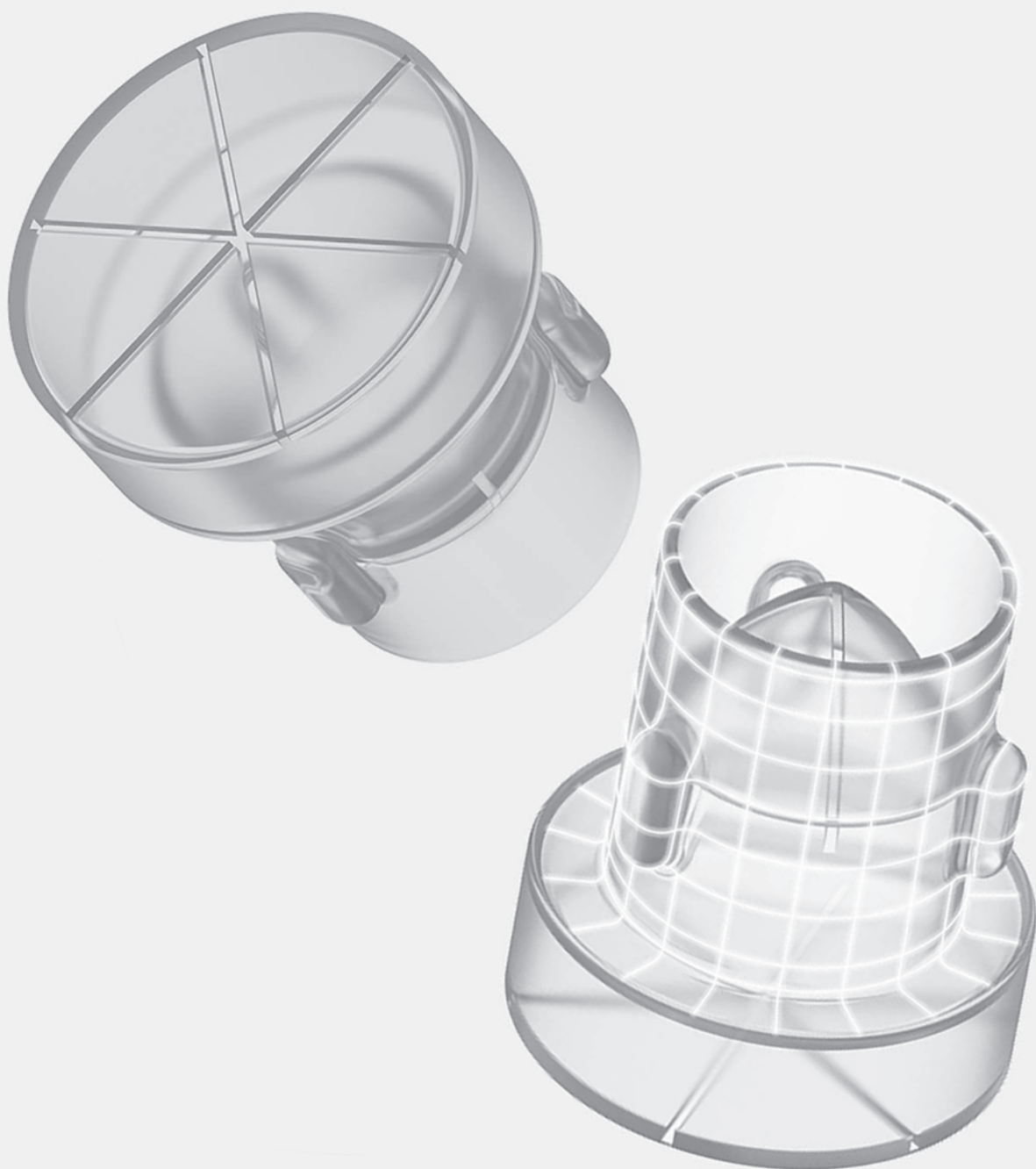


 GENTIL

SUKNA

NOSE PIECE



患者の皮膚へのダメージを和らげ、術者への飛沫拡散を低減する
専門医と共同開発した「ノーズピース スクナ」誕生

経鼻内視鏡手術の際に患者の皮膚のダメージを軽減する「ノーズピース スクナ」は、手術機器の出し入れのスムーズさも兼ね備える製品として誕生しました。また、COVID-19をはじめとする飛沫による拡散を低減する効果も期待できます。

Pick up point_01



患者への負担を軽減し、 フィット感を実現するシリコンゴム

医療グレードの柔らかいシリコンゴムを採用しました。しなやかな伸縮性と型崩れしない構造的強度を持ち合わせており、患者鼻腔内フィットし、スムーズな手術操作をサポートします。また、適度な強度があることで弁構造が保たれ、エアロゾル・飛沫の鼻外への拡散を低減するとともに、手術器具のコリドー（通り道）として役立ちます。



Pick up point_02



位相の違う2つの弁構造で 患者の飛沫拡散を低減

鼻の外側に出る部分の“フランジ”と、鼻の内側に入る“円筒”に大きく分かれます。双方2箇所に菊割れ弁がついていて、弁を介して内視鏡や鉗子などの手術器具がスムーズに鼻腔内に挿入されます。この弁は、1層目と2層目それぞれの弁の割れ目が同軸上に重ならないように工夫することで、手術中に発生するエアロゾル・飛沫が鼻外に拡散するのを低減する役割があり、術者を含む医療従事者が COVID-19 などのウイルスや細菌に感染するリスクを軽減する構造となっています。

また、フランジ部分は、手術が鼻前庭へ接触するのを防ぐ構造となっているため、機器の頻回のお出し入れによる鼻前庭の“医療関連機器圧迫創傷”の発生が低減されます。言わばノーズピース・スクナは、術者にも患者にも優しい機器と言えます。円筒外側の突起により、手術器具を頻回にお出し入れしても、簡単に外れない構造となっています。

ノーズピーススクナは京都大学、島根大学との共同研究で生まれました

人体模型に装着し実際の手術シミュレーションを行うことで問題点を洗い出し、修正をすることを繰り返すというアジャイル型の開発を実施しました。円筒構造、菊割れ弁、素材についてのご提案を基に3Dプリンタでプロトタイプを作り、トライアンドエラーを繰り返し製品化を実現しました。

製品仕様

一般的名称：自然開口向け単回使用 内視鏡用拡張期
 クラス分類：I
 特許出願日：2021年3月5日
 共同開発者：京都大学/島根大学/(株)山本金属製作所/山本精密(株)

製造販売業者：山本精密(株)
 使用目的：医療施設において、
 経鼻内視鏡使用時に
 内視鏡の挿入を補助する。

